

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

FD・SD委員会

(責任者名) 橘 ゆかり (役職名) 副学長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>当プログラムの修得要件となっている「データサイエンス・AIリテラシーⅠ」と「データサイエンス・AIリテラシーⅡ」は、全学共通科目の情報系列1年次の必修科目のため履修率は共に100%である。</p> <p>また、令和6年度の単位修得率は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「データサイエンス・AIリテラシーⅠ」:91.8% ・「データサイエンス・AIリテラシーⅡ」:94.4%
学修成果	<p>配布資料を読む以外に受講生が興味を持てる事例をインターネット上で事前学習として各自に探させてみたが、期待通りにいかないこともあった。また、データリテラシーでは、身近なデータを用いて具体的にExcelを用いた処理やグラフ作成を行ったが、Excelの操作が不慣れなこともあり指示された処理やグラフ作成に時間が掛かった。そのため、得られた結果やグラフを受講生自身が考えたり、説明したりする時間的な余裕がなくなって、教員が解説して講義を終えることもあった。ただ、これらを繰り返すことで操作にも慣れ、体験を通して講義内容を学修できたと考えている。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>FD・SD委員会が実施した「学生による授業評価アンケート」の結果では、「シラバスに示された到達目標を達成したか」の設問に対し、「強くそう思う」あるいは「そう思う」を選択した受講生の割合は「データサイエンス・AIリテラシーⅠ」が77.1%、「データサイエンス・AIリテラシーⅡ」が87.8%となっており、学生の内容の理解度は高かったと判断できる。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>FD・SD委員会が実施した「学生による授業評価アンケート」には該当する設問がないため後輩等他の学生への推奨度について具体的な値を把握できていないが、「この授業は総合的にみて良い授業であった」の設問に対し、「強くそう思う」あるいは「そう思う」を選択した受講生の割合は「データサイエンス・AIリテラシーⅠ」が88.6%、「データサイエンス・AIリテラシーⅡ」が92.0%であったことから、同程度の推奨度があるものと考えている。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>当プログラムは令和6年度入学生から始めているため、令和5年度までの入学生には履修者がいない。その結果、現時点での全学的な履修率は低くなっているが、当プログラムの修得要件となっている「データサイエンス・AIリテラシーⅠ」と「データサイエンス・AIリテラシーⅡ」は、全学共通教育科目の情報系列1年次の必修科目としているので、年次進行と共に履修率は上昇していき、令和10年度には100%に達する予定である。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本プログラムは令和6年度入学生から履修を始めているため、まだ卒業生に修了者はいないが、本学が行っている卒業生アンケートや企業アンケートを使って把握する予定である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	現時点では産業界からの評価はまだ受けていない。今後、キャリア支援課と連携をして、本学が行っている企業アンケート等を使って意見を収集すると共に、教育プログラムの改善に活用していく予定である。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	リテラシーレベルのモデルカリキュラムにある「導入」に示された内容を元に講義を行った。また、講義の事前準備として受講生が興味を持った事例をインターネット上で探し、講義においてそれをクラスで共有した。さらに授業後には「導入」部分の学修目標に対する簡単なレポートを提出させて理解度を確認した。実際のところ、事前準備の報告では同じ事例や的外れの事例もあって期待通りにはいかないところもあり、次年度以降はどうやって探すか、何を探すか等、もう少し基礎的なところから始める必要があると考えている。
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>講義内容の理解を深めるために受講生が持参したパソコンを使って実際にデータの処理やグラフ化の実習を行っているが、受講生のパソコン操作に関するスキルがあまり高くないこともあり実習が思い通りに進まないことが多かった。まずは、パソコンの操作スキルの底上げを行ってから具体的な実習に移るよう講義の内容や進め方の見直しを検討している。初年度ということもあり本学にあるSA(Student Assistant)制度を用いた授業補助が行えなかったが、次年度以降はこのプログラムを修了した学生をSAとして授業補助に付けることで講義中のサポート体制強化を考えている。</p>